

PENTAS Magazine

vol.0

Teaser Issue

(Teaser…じらす、からかうの意)



VUCA時代の成長戦略を支える 実践的教育プログラム

V…Volatility (変動性・不安定さ)

U…Uncertainty (不確実性・不確定さ)

C…Complexity (複雑性)

A…Ambiguity (曖昧性・不明確さ)

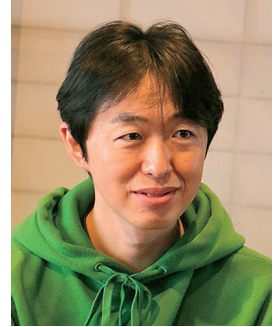


大学による地方創生人材
教育プログラム構築事業

「たくましさ」から「しなやかさ」へ ～社会をアップデートする学び～

杉山 歩

山梨県立大学 COC+R 教育プログラム長
国際政策学部 准教授



学びは個人の自己実現のための道具であると思われるがちですが、僕は社会をアップデートするためのテコのような存在だと考えています。では、本プログラムを通して実現した社会とは何か？ 大学が果たす役割は何か？ そのキーワードは「しなやかさ」だと思います。しなやかな個人がリキッド化し社会の形を変えていく。そのための学びとコミュニティがPENTAS YAMANASHIです。学生も社会人も関係なく、学びを通じた価値観のアップデートが社会のアップデートに繋がると信じています。まずは隼より始めよ。

PROFILE

1979年生まれ。諏訪町(現富士川町)出身。

地域資源からの価値創造をテーマにデータサイエンス、観光学、知識科学分野を中心に学際的なフィールドで教育研究活動を行う。

草木染め技術からの価値創造により2019年に第一回STI for SDGsアワード文部科学大臣賞を受賞。観光分野では顧問として2016、2017年に大学生観光まちづくりコンテスト観光庁長官賞を2年連続で受賞、2020年は同運営協議会事務局局長賞を受賞。

一社)Mt.Fujiイノベーションエンジン理事、山梨大学地域人材養成センター特任准教授、北陸先端科学技術大学院大学教育連携アドバイザー。博士(理学)。

“知のプラットフォーム”として地域活動を後押し

風間 ふたば

山梨大学(COC+R 参加校) 副学長
地域人材養成センター長



戦後の高度成長期から停滞の時代を過ぎたら人口減少が目前になり、こうなってやると、この国は大きな変化への対処が必要だと気が始めています。大きな打撃を受けるのは地方のはずですが、その地方で、年齢や性差、これまでの経験などが異なる様々な人々の思いや動きが地域独自の文化に混入されて、新しい風土をもつ成熟社会が作られる期待感があります。地域の大学は“知のプラットフォーム”として、それを作り上げようとしている人々の活動を後押しできる存在でありたい。このプログラムに関わることは、本学にとっても、そのための一つの大きなトライであることに間違いありません。

PROFILE

山梨大学工学部応用化学科卒業後、山梨大学工学部環境整備工学、循環システム工学科を経て、2011年4月より生命環境学部環境科学科教授。

“身近な暮らしに必須な水”としての視点から、陸水域の様々な水の質や、人間活動から排出される水の処理に関する研究を継続。また、任意団体Yamanashiみずネットを2000年より主宰し、県内の他団体と協力しながら市民参加型水質調査や水辺の生き物調査などのイベントを継続開催中。2014年から2019年にかけてJST/JICAによるSATREPSプロジェクト「微生物学と水文水質学を融合させたネパールカトマンズ盆地の水安全性を確保する技術の開発」代表。

環境省中央環境審議会専門委員、国土審議会専門委員、山梨県環境保全審議会会長など。

山梨県一ノ宮町(現笛吹市)出身で現在は甲州市在住。一女の母。

山梨県立大学コンセプト

全体のコンセプト **ARTとSCIENCE**の精神を兼ね備えた創造的課題解決人材の育成

ARTとは？

自然を模範とし、美の精神で
未来を創造する力

SCIENCEとは？

物事の本質を突き詰め、
一般化する力

VUCA時代とは？

過去から未来が見通せない
・形式知(前例主義)が通用しない
・観察からプランを練り、トライする

形式知が役立たない？

実践知を学ぶ場の創出

山梨県立大学は何を教えるべきか？

専門性

キャリア
支援

創造性

学 生 対 して…専門性の高い職業への橋渡し(漠然と事務職希望では通用しない)

社会人 対 して…VUCA時代の伴走サポート(キャリアアドバイス)

企 業 対 して…付加価値を生み出す社員の育成



教育プログラムを語り合う杉山歩、水上篤氏、田中友悟氏(写真:左から)=甲州ほうとう完熟屋(甲州市)

VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム キックオフ対談

あらゆるものを取り巻く環境が目まぐるしく変化し、既存の価値観やビジネスモデルなどが通用しない、将来の予測が困難なVUCA時代。その中で変化に取り残されず、生き抜いていくことができる人材とは？ その人材を育む大学には、どんな教育プログラムが求められているのか？ どんな若者が地方に必要なのか？ VUCA時代の地方で独自の視点や考えで活躍している3人が、本音で語り合いました。

対談者

杉山 歩

山梨県立大学 COC+R 教育プログラム長
国際政策学部 准教授

水上 篤氏

農業生産法人 株式会社 hotoho 代表取締役

田中 友悟氏

一般社団法人山梨市ふるさと振興機構 代表理事
龍谷大学ユネスコソーシャルビジネスリサーチセンター
問いを深め合うディスカッションメディア syn 編集長

資格講座でも、カルチャークラブでもない、 大学だからこそできる、 自ら考えて生きられる学びをつくる。

杉山 歩(以下、杉山): 地方という自然が豊か、ポテンシャルがいっぱいというのが従来の考えですが、そうではないところで活動しているお2人がどんなことをされているのか、まず自己紹介をお願いします。

田中 友悟氏(以下、田中): 僕は4年前に山梨市から一次産業の方たちの課題調査の依頼を受けたのをきっかけに、山梨の資源を外に売り込むお手伝いをする一般社団法人を起ち上げました。人々が時間をかけてつくってきた、地域の歴史や文化とつながりのある手仕事の生

業を、デザインや発信の力でサポートしています。

水上 篤氏(以下、水上): 私はシンプルにいうと廃品回収業者ですね。価値をつけられてないもの、新しい価値ができるものをもう一度デザインし直しています。最近は何をやっているかわからないぐらいいろいろやっていますが、どれも楽しいことをしたいっていう願望でやっています。

杉山: 山梨は大学教員として地元就職率が気になるんですが、社員で山梨の大卒の方っていますか。

水上: うちはないな。ちょっと突出している子たちは、山梨から出ちゃいますよね。

田中: うちもないですね。挑戦したい人は東京に行くべきかなって思うんでしょね。

杉山: VUCA時代を自由に越境できるスキルを身に付けていくことが今事業のコンセプトなんですが、学生には東京の大手企業に勤めたい、もしくは公務員になりたいというような旧来からの安定志向の価値観がまだまだ残っています。

水上: それは人生をほとんど外注し



てますよね。全く面白くない。仕事って面白いのに、知らないなんてかわいそうだな。

杉山: それは教育そのものが旧態依然で、経験を通した学びを教える機会が少ない事も原因かもしれません。

思考停止する大人 教育は外注されている

杉山: 田中さんのところは、若い人が働いていますよね。

田中: 地域づくりのプログラムを学ぼうと集まった人の中から、自分のやりたいことと、ここで求められているものが上手く重なった人が残った感じですね。やりたいことがある人は、それを使って提案できたり、悩めたりしますよね。

水上: 最近思うんですが、雇用しちゃうダメなのかな、会社っていうのも古いのかなと。一人一人がフリー



つくる魅力に気づき始めている

田中 友悟氏

ランスで生きていけるだけの教育をしていけばいいんですが、その点で日本人はちょっと厳しい。

杉山: 主体性の部分では世界と勝負になりませんか。

水上: 教育が外注になってしまってるんですよ。ほとんどの大人は30年後の社会で今の教育はほぼ使えないとわかっているのに、思考停止して外注してる。でも田舎はそもそも外注できるものが少ないので自分でやるしかなく、自分でできる範囲も広がります。

田中: 地方と都市の違いは、クラフトマンの多さだと思います。つくることは学ぶことで、モノそのものをつくれなくても、自分にとっての価値や意味をどうつくっていくのかを考え続ける抽象的な力を若いうちに付けるのが大事。その実践例が山ほどいるのが山梨であり、地方です。

水上: つくるのにお金がかからない、間違えても大丈夫そうなのが田舎ですよ。ものをつくっていくと、見えないものが見えるようになっていたりして、自分の深さも変わっていきます。

面白い人たちは地方に向かう 山梨はブルックリン!?

杉山: リーマンショック以前に外資系や金融系で働いていた人たちが、今は地方に向かっていると思うんです。それがまさしくメイカーズムーブメントで、今は都内の大手アパレルでなくても、山梨で世界最高峰のシャツが作れる時代で、今までは来なかったような、自分で仕掛けられる面白い人たちが地方に来てますよね。

水上: 確かにニューヨークでガンガ

ン稼いでいた人たちが、今は週3は山梨にいますとか言ってます。一巡してきた意識の高い人たちは、気づき始めていますよね。そういう人たちがメイカーズの方向にしてくれるのは面白いな、すごいパワーがあるなと思います。

田中: 東日本大震災以降、それまで良いとされていたものが変わり出して、大学でも政策学部なんかが増え、そこで学んでいることと世の中の流れとがうまく結びついた人たちは今、地方を目指しています。若い世代も含め、つくることの魅力にみんながあらためて気づき始め、それができる時代になりつつあります。

水上: 3Dプリンターだって安く買えるし、部品も1個から取り寄せられるし、1人でメーカーになれちゃう時代ですからね。

杉山: IoTやAIで勝てるのはトップオブトップだけで、そこが総締めめの社会の今、メイカーズの方ができることは多いです。

水上: IoTやAIをいかに使い、改善し、創造性豊かなものをつくっていくかですよ。今は情報がたくさんあるけど、実際やってみないとわからない。やってみることにしているのが非常に安いのが田舎で、ものづくりに最適だと思います。ニューヨークのブルックリンも何もないところだったけど、最初にクリエーターがきて、そこから変わっていききましたよね。

杉山: ブルーボトルコーヒーはものづくりの感性溢れる清澄白河を東京のブルックリンだといって出店しましたが、結局都心での出店ばかりになりました。ものづくりの感性で言えば、歴史や伝統文化の残る

実践知で経験を積んでいく

答えがない中で考えることが大事

水上 篤氏

日本の地方はアメリカの地方と違いブルックリンのようなクリエイターが集まりやすい気がします。

水上: 山梨県は東京に一番近い地方ですよ。ほかは地方ではなくて、じわっと東京ですから。

杉山: じゃあ、山梨はブルックリンですね。

杉山: 県立大は学生の約半分が県外者で、日本中から面白い学生が集まってきていますが、学生の考え方をアップデートさせるのに苦労しています。

水上: 日本人の考え方がアップデートされてませんからね。

田中: いろんな文化圏で育った人が集まっているのは、県立大の強みですよ。異なる文化を持つ人が集まる場所で作ることが、自分たちの気持ちよさや喜びになることを、山梨の中で学べるのが大事だと思います。

水上: つくっている人を見せてあげることができるのが、田舎のポイントかなと思います。見ることで、自分ができないと思っていたことができるとうわがるのは、ブレイクスルーになり得るので。

キーワードは実践知×センス 経験して、自分で考える

杉山: それと今回は実践知をキーワードに取り組んでいきたいんですよ。

田中: 体験するということですよ。実践知の集合知が大事ですね。

杉山: それとセンス。今回はアートとサイエンスを挙げているんですが、センスを磨かないと、体験を繰り返しても生かせないので。

田中: 何が美しいのか、いいのかを

自分なりに咀嚼できないと、深まらないですから。

水上: 獣と同じで、すべてを自分で考えること。そうしないとすべてが外注になってしまう。結局、答えがない中で考えるってことが大事なんですよ。

杉山: 薄っぺらい社会で、いかに本質を見極めるかですね。

自分で考えられない 自分とともに生きていない

田中: それから、つくれていってもつからない時代に、どうつくらせるか。

水上: それには見えるゴールが必要。つくられたものが見える方が面白さがわかりやすいし、ブランディングもしやすい。

田中: 価値もわかりやすいですね。それと今の子どもたちがつからないのは、一人だからだと思います。独学って難しいですから。ちょっと楽しく誘惑的に、どうみんなで作っていきけるかっていう空気をつくって、上手くメッセージを伝えられるといいかな。

杉山: 一人で作るものは、限界がきている気がします。最近は共創が重要なテーマになっています。

田中: それと問いを階段のようにい



ざなってあげると、自分が欲しいものを考えやすくなります。

水上: 引き出してあげないと自分でも分からないんだよね。それだけ自分で考えられない人、自分とともに生きていない人が多い。誰かの何かを生きてるんだよね。

杉山: IoTの本質もドローンではなくて、ネットを使って現実社会を面白くしようということで、メイカーズの本質も3Dプリンターではない。そういう違いを自分の頭で考えて、気付けることがポイントですね。

水上: 最終的には考えなくても判断できる人たちがすごい。直観力ってすごいですよ。でもそれは経験値を積んできたからこそ。

杉山: 資格講座でもなく、教養講座でもない、実践知で経験を積んで、自分で考えて生きられる学びをつくってほしいですね。



プログラムコーディネーターからのメッセージ

一度しかない人生を クリエイティブに生きて感動を

船木 上次

山梨県立大学 COC+R エグゼクティブコーディネーター
萌木の村株式会社代表取締役社長

感謝・感動・笑顔

時代は大きく変わります、天動説が地動説になったときの様に！ 地球上に生きる全ての生命体が生き延びるために新しい価値を創造していかなければなりません。その中で大事なことは正しい判断をするということ。そのためには身の周りに自然・芸術・哲学（歴史・宗教）があり、いつもそれらに触れていることが必要です。人間という馬鹿な生き物だけに、自らを戒める知恵が必要なのです。そして一度しかない人生をクリエイティブに悔いなく生きて感動を手に入れたいものです。



PROFIRE

1949年清里生まれ、父は東京丹波山村から清里開拓団として1938年に清里に入植し、その後「清里の父」と言われたポール・ラッシュ博士のもとKEEP協会農場長を勤めた人。本人も幼少の頃から開墾作業を手伝い、ポール・ラッシュ博士のもとで過ごした。23歳・清里で初めての喫茶店「ROCK」を開業、28歳清里で初めてのホテル ハット・ウォールデンを開業、41歳・「第1回清里フィールドバレエ」開催。
現在、佐藤西武文理学院理事、スペシャルオリンピックス日本・山梨顧問、財団法人KEEP協会理事、2003年内閣府より観光カリスマ百選「開拓魂のカリスマ」に認定されている。

地域資源をマリアージュ

仲田 道弘

山梨県立大学 COC+R 特任教授（観光）

食事にワインを合わせ、より美味しくするマリアージュ。その基本は、ワインを料理の仕上げの調味料と考えることです。レモンを絞りたい料理には柑橘系の白ワイン。コショウを振りたいたステーキにはスパイシーな赤ワイン。ユズを添える和食には甲州ワイン！

今回のプログラムでは、これを地域資源に応用します。山梨の「自然」「食文化」をどのように調理し、どんなワインとマリアージュするのか。そして事業化に不可欠な「おもてなし」「ブランド戦略」についても本格的に学べます。



PROFIRE

1959年山梨県北杜市生まれ。筑波大学卒業後、山梨県庁入庁。30年にわたりワイン産業の振興に携わる。ワインの品質向上・マーケティング・デザイン・ブランド・輸出・観光を担当。元山梨県観光部長。現在（公社）やまなし観光推進機構理事長。著書に、山梨の経営者のチャレンジ物語「自分自信」1999年、「おもてなしの達人」2003年、「日本ワイン誕生考」山梨日日新聞社2018年、「日本ワインの夜明け」創森社2020年などがある。

30人を超える多彩な講師

堀内 久雄

山梨県立大学 COC+R 特任教授
（プロジェクトコーディネーター）

多様な人々との出会いが人生をかたちづくり、豊かにする。

20代後半、職場の同僚に誘われ、地域づくり研究グループに参加しました。

県内はもとより、全国の多彩な人々を訪ね、交流し、地域を愛するひたむきな心に感動しました。その後も魅力的な人との出会いに恵まれて、私がここにあります。

山村首長、自治体職員、建築家、歴史文化の専門家、会社経営者、ホテル支配人、社会起業家、ワイン・日本酒醸造家、トレイルガイド、パティシエ、シェフ……など
今回は、様々な専門分野の現場で、熱心で活躍する30人を超える多彩な面々に講師をお願いしました。

多様な生き方と実践の現場を知ること、新しいチャレンジへの第一歩をお手伝いできたらいなと思っています。

教室で会いましょう。



PROFIRE

1954年富士河口湖町生まれ。9代目の専業農家の長男。元県職員（ライフワークは観光地域づくり）。現「富士大石ハナテラス」広報本部長。
故郷での土着生活を実現すべく
・赤ワイン用葡萄栽培（勝沼町愛山で仲間と20年 限定300本）
・自家農園：肥料は鳥糞の鶏糞と落ち葉の堆肥＋発酵竹パウダー
・木こり：暖房は薪ストーブ、特技は薪割り
・そして冬期は猟師
・敬愛するアーティスト：田中浜（ダンサー）、李禹煥（現代アート作家）

「働くこと」と「稼ぐこと」と

手塚 伸

山梨県立大学 COC+R 特任教授（産業）

多くの経営者と議論を重ねる中、ある時、若干の波はあるが堅実な経営を実践している経営者の多くが、「働くこと」と「稼ぐこと」とを明確に使い分けている、と気づきます。経済状況によっては、なりふり構わず利益を上げなければならない時があります。そんな時は「稼がなきゃ」。けどこれには少なからず疑問を持たれている。基本は社員を守り、地域経済を守り、社会に有為なものを「つくる」こと。そんな時は「働かなきゃ」が本心、と確信しました。

GAFAYBATという言葉が聞かぬ日とありませんが、私には虚業に見えます。山梨には、「働くこと」を本旨に高い技術力で世界と戦い確固たる地位を築いている企業がたくさんあります。これらの経営者やこれらを支援する人々の悪戦苦闘を、さらには県外の識者からの眼差しを学ぶことにより、山梨で働くことへの意義が描けたら、と思います。

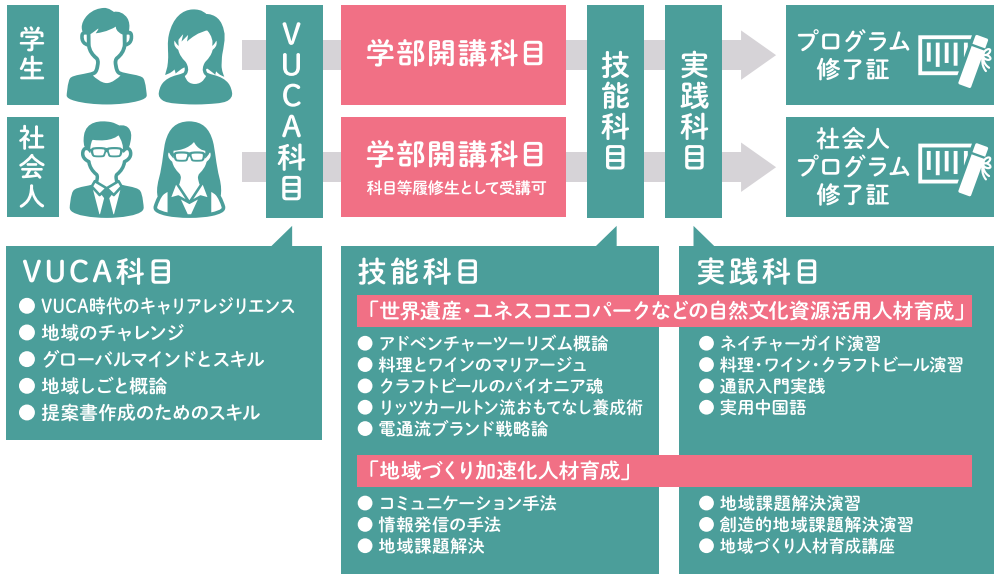


PROFIRE

1959年生まれ。信州大学経済学部卒業後、1982年山梨県庁入庁、主に政策形成分野に従事し3代の知事の長期計画策定に、2010年以降は主に産業政策分野に携わる。
この間、山梨中央銀行研修派遣、山梨総合研究所派遣、やまなし産業支援機構派遣など民間へ出向するとともに、2012年4月～2013年3月立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科兼任講師を務める。
2020年3月、山梨県庁を退職し4月から公益財団法人やまなし産業支援機構理事長

教育プログラムのご紹介

学生x社会人の混合による学修の場での講義体系とその科目例



プログラム修了証は事業協働機関とともに発行いたします。

事業協働機関：公益財団法人 山梨総合研究所、公益社団法人 やまなし観光推進機構、公益財団法人 やまなし産業支援機構等

本事業の教育プログラムが定める4つの教育ユニット

世界遺産・ユネスコエコパークなどの自然文化資源活用人材育成

宿泊業 飲食業 観光関連産業

令和3年
6月開設

目的 地域資源の活用方法を学び観光の高度化を図る事ができる人材の育成

プログラム紹介

本プログラムは地域資源の活用方法を学び、観光の高付加価値化を図る人材の輩出を図るため実施する。

山梨県観光部とともに運営してきた副専攻課程「地域通訳案内士」をもとに教育プログラム化し他大学の学生、一般社会人向けに開放する。また、ネイチャーガイドなどに携わる実務家から自然・歴史文化財の活用方法を学ぶ。

地域づくり加速化人材育成

公務員

令和3年
6月開設

目的 地域づくりの中心を担い、社会変革力の醸成を担う事ができる人材の育成

プログラム紹介

本プログラムは、今後の地域づくりの中心を担う人材育成を行うため、公務員志望学生に対してより実践的な公務員にとって不可欠な動機づけ、社会変革力の醸成を担う。

試験の点数よりも実践的な企画立案能力やインターンシップに近いかたちで実際の現場を体験し、高いコンピテンシーを身に着けた公務員を増やすための一助とする。

貿易ブリッジ・国際労働者マネジメント人材育成

農林業 製造業

令和4年
開設

目的 県産品の輸出を牽引する人材の育成・地域の現場における外国人労働者をマネジメントできる人材の育成

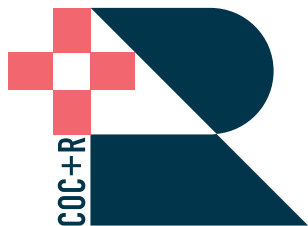
医療・福祉・学校現場での国際化・多文化化対応人材育成

医療 福祉 教育

令和4年
開設

目的 医療・福祉・小学校等での通訳や言語の壁を乗り越えたコミュニケーションのできる人材の育成

COC+Rとは？



大学による地方創生人材 教育プログラム構築事業

Centers of Community —
Project for Universities as Drivers of Regional Revitalization
through New Human Resources Education Programs

地方創生に向けては、当該地域にある高等教育機関が核となって、その地域の経済圏における教育と職業、教育と新たな産業を結びつけていく活動が不可欠です。

人生100年時代においては、高等教育機関には多様な年齢層の多様なニーズを持った学生を教育できる体制が必要となるため、いわゆる就職氷河期世代も含めた様々な社会人に対しても受けやすく即効性のある出口一体型人材養成の確立が求められています。

本事業は大学・地方公共団体・企業等の各種機関が協働し、地域が求める人材を養成するための指標と教育カリキュラムを構築し、指標に基づき、出口(就職先)が一体となった教育プログラムを実施いたします。

目的

本事業の目的は学生の能力開発、進路相談、実践活動、資格取得といったキャリアに関わる教育プログラムを学部主導の学士課程教育とは別に設計し、地方創生人材育成のため大学・企業・自治体・関係団体で協働的に実践教育を行うシステムを構築することです。また、「VUCA(Volatility(変動性・不安定さ) Uncertainty(不確実性・不確定さ) Complexity(複雑性) Ambiguity(曖昧性・不明確さ))時代を自由に越境する術」の取得により、学生自身が今後のセカンドキャリア・サードキャリア、社内起業・新企画開発など高付加価値人材となる教育プログラムを構築し、スキルアップを目指す社会人、地元企業の社内教育に対しても展開し、学生・社会人の垣根を超えた地方創生人材の育成に取り組みます。

2021年3月発行

お問い合わせ先

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
山梨県立大学 飯田キャンパス
社会連携課
TEL: 055-225-5412
E-mail: shakairenkei@yamanashi-ken.ac.jp
HP: <https://www.pentas.yamanashi.jp>



詳細はこちらから

PENTAS 山梨県立大学 🔍

